

# 耐衝撃車止めに3種追加

## サンポール 浅埋め込み式など

旗ポール・車止めのトップメーカー、サンポール(本社〓広島市、山根令社長)は、販売が好調な耐衝撃仕様の車止め「インパクトポラード」に3種類の「インアップ」を追加し、4月から販売を始め、従来の基礎式に加え、浅埋め込み基礎式、地中に収納することもできる上下式、基礎工事不要の土中打ち込み式を追加し、これまで

施工できなかった一部の歩道や商業施設などでの採用を見込む。

浅埋め込み基礎式のインパクトポラードは、基礎に独自開発のグレーチング構造材を採用した。地面を掘削してコンクリートで基礎をつくる従来型に比べ、掘削する深さを半分程度の280ミに抑えられる。歩道などでは600ミ掘削すると配管などの埋設物がある

ケースが多く、施工に関する相談も増えていたという。

上下式の「インパクトリフター」は、不要時には車止めを地中に収納できる。車両の衝突を受け止められる車止めとしては初の上下式で、商業施設の敷地内や建物のエントランスなど、一時的に開放する必要がある場所での採用を見込む。車止めを収納する埋め込み



浅埋め込み基礎式の施工の様子

スリーブには板厚6ミの鋼管を採用し、車両の衝撃を吸収するよう工夫を加えることで開発した。

地中に打ち込む土中式は、基礎工事が不要。本体を地中に1000ミ程度打ち込む必要があるが、ガードレール

の支柱打込機と専用治具で施工することができ、施工時間の短縮にも寄与する。

サンポールは2020年にインパクトポラードの販売を開始。多発している車両が歩行者を巻き込む交通事故による被害を防ぐと、1年半かけて開発、すでに全国1万3000本以上の採用実績を持つ。

21年には日本道路協会が「ポラード」の設置便覧」を策定し、車止めにこれまではなかった明確な強度基準が設定されるなど、耐衝撃仕様の車止めのニーズは年々高まっているという。